【別添】表10：Older adults' perspectives on the process of becoming users of assistive technology: qualitative systematic review and meta-synthesis から抽出された質的研究の一覧（全17件）

	title	Citation and country		Participants	Attype	Design methodology ,method	Themes	PHASES	Transitions
1	Exploring seniors' views on the use of assistive devices in fall prevention	F Aminzadeh 1, N Edwardsm1998 CANDA	高齢者が転倒予防行動を取るか取らないかの意思決定に影響を与える可能性のある要因に関する研究が不足しているため、これらのプログラムの潜在的な影響は小さくなっている。この探索的記述研究は、転倒予防における補助器具の使用に関する高齢者の見解について質的データを引き出すために、フォーカス・グループ・アプローチを採用した。カナダのオタワに住むイタリア系とイギリス系カナダ人の地域在住高齢者30名の便宜的なサンプルに対して、4回のフォーカスグループ・インタビューを実施した。	30人 61-86歳 平均年齢 72.2歳	歩行と入浴の補助器具	Retrospective dsign forcus group	インタビューでは、転倒、老化、高齢者の補助器具使用に関する個人的な経験やその意味について記録した。この結果は、高齢者の転倒を予防するための個人カウンセリング、ソーシャル・マーケティング、政策変更の領域において、公衆衛生看護の実践に重要な示唆を与えるものである。また、本研究は、このテーマに関する今後の研究の方向性を示している。 3つの異なるテーマを設定、転倒の違い・移動サポート機器の使用に対する高齢者の視点・入浴解除に対する高齢者の視点	AC	BC
2	Acceptance and meanings of wheelchair use in senior stroke survivors	Donna J Barker 1, Denise Reid, Cheryl Cott 2004 CANADA	この質的研究の目的は、自宅や地域で所定の車椅子を使用している脳卒中高齢者の生活体験について理解することであった。この研究では、平均5.6年間車椅子を使用していた70歳から80歳の10人の参加者に対して、半構造化された詳細なインタビューを行った。分析は、定比例帰納法にて行った。車いす使用に対する受容は、消極的受容、感謝的受容、内的受容の3つのカテゴリーに分類された。	10人 70-80歳 平均年齢75.5歳	マニュアルの車椅子 電動車椅子 電動スクーター	Retrospective dsign quqlititqtive methodology (under fined) semi-structured,indepth interviews	移動能力の向上、多様な社会的反応、大切な役割の喪失は、3つの車椅子受容カテゴリーに共通したものであった。負担の大きさ、自由、自発性については、3つのカテゴリー間で程度が異なっていた。車いすは、脳卒中患者の生活に継続性を持たせる機会を提供するため、より完全に受け入れられ、より肯定的に捉えられているようであった。高齢の脳卒中経験者が車いすの使用を最大限に受け入れるためには、脳卒中前のライフスタイルや価値観を慎重に考慮する必要がある。	m	
3	Use of Mobility Devices: The Decision-Making Process of Nine African-American Older Adults	Albert E. CopolilloView all authors and affiliations 2001 USA	作業療法士がクライエントの生活にモビリティデバイスを取り入れることを支援するためには、モビリティデバイス使用の個人的意味と使用に影響を与える要因を理解することが重要である。この探索的研究では、現在および潜在的なニーズを持つ9人の高齢者がモビリティデバイスを使用することを決定する過程を調べた。地域社会に暮らすアフリカ系アメリカ人の高齢障害者の生活を調べるために、フォーカスグループやナラティブインタビューなどの質的方法を用いた。	9人 63-91歳 平均年齢71歳 アフリカ系アメリカ人	移動ディバイス	Loungitudinal Design Gorouded theory , focus groups and Indivisual narrative interviews	移動装置使用の意味と価値、および移動装置が日々の出来事に与える影響について話し合うよう促された。データは、グラウンデッド・セオリーの手法で分析された。その結果、モビリティデバイスの使用を決定するプロセスを説明する4つのテーマが浮かび上がった。このプロセスを支援するために、使用の活動性や環境特異性を認識し、移動装置使用者の最終目的である使用中止の重要性について議論した	A,B,C,D,E	
4	The Impact of Experience and Heuristics on Everyday Decisions to Use Mobility Devices: The Need for Control in Nine African-American Older Adults	Albert E. CopolilloView all authors and affiliations 2001 USA	アフリカ系アメリカ人の高齢者9名を対象に、現在および将来の移動装置使用に関する意思決定と問題解決について調査する定性調査を行った。フォーカス・グループと個人のナラティブ・インタビューが行われた。	9人 63-91歳 平均年齢71歳 アフリカ系アメリカ人	移動ディバイス	Loungitudinal Design Gorouded theory , focus groups and Indivisual narrative interviews	高齢者は、自分自身の過去の経験、移動装置を使用または使用を検討している他者の観察、規則を、装置使用に関する意思決定のためのヒューリスティックとして使用していることが示された。また、自分の身体的・社会的環境をコントロールしたいという欲求が、移動装置使用に関する意思決定の指針となっていた。この研究の参加者は、環境をできるだけ変えずに自己イメージを維持しながら、低下する移動能力を管理する方法を模索していた。したがって、移動装置の使用は、地域在住の高齢者が受け入れる準備ができるよりも永続的かつ抜本的な環境の変化を意味するため、最後の選択肢であると考えられていた。この結果を実際に使用するためのガイドラインを提案する。	A,B,D,E	

【別添】表10：Older adults' perspectives on the process of becoming users of assistive technology: qualitative systematic review and meta-synthesis から抽出された質的研究の一覧（全17件）

	title	Citation and country		Participants	Attype	Design methodology ,method	Themes	PHASES	Transitions
5	Acquisition and integration of low vision assistive devices: understanding the decision-making process of older adults with low vision	Al Copolillo 1, Jodi L Teitelman 2005 USA	弱視の高齢者が弱視者支援機器（LVAD）の使用をどのように決定しているかを説明することである。グループインタビューと個人インタビューの両方から、参加者の語りを分析した結果、機器の使用に影響を与える3つのトピック領域が明らかになった。この論文では、そのうちの2つについて説明します。LVAD使用の決定を成功させるための経験と特徴」と「LVAD使用の決定を成功させるための挑戦」です。3つ目の「弱視障害への適応」については、簡単に説明します。	56-90歳 平均年齢75.7歳	LVAD弱視者支援機器	Loungitudinal Design Gorouded theory , focus groups and Indivisual narrative interviews	弱視リハビリテーションの分野で成長する作業療法士にとって特に重要なのは、機器の入手と日常生活への統合を支援する弱視リハビリテーション・サービスに価値が置かれている。作業療法サービスは非常に高く評価されています。参加者は、弱視者のサポート・ネットワークに参加して、リソースに関する情報を得ることの重要性を示した。また、LVADの使用について十分な情報を得た上で決定するための障壁を減らすために、制度や政策の変更が必要であることを強調しました。この結果から、弱視の作業療法士は、支援ネットワークの構築を促進し、患者と他の医療従事者（特に眼科医）との連絡役を務め、バリアフリーのLVADの取得と使用を支援する政策展開を促すことによって、顧客を支援できることが示された。これらのトピックは、弱視リハビリテーションの分野でリーダーシップを発揮できるようにするために、継続教育や初級教育に取り入れる必要があります。	B,C,D,	B-C
6	Making decisions about simple interventions: older people's use of walking aids	Rachael Gooberman-Hill, Shah Ebrahim 2007 UK	歩行補助器と高齢者を結びつけるステレオタイプは広く知られているが [10]、高齢者自身が補助器の使用についてどのように感じているかについてはほとんど知られていない。本研究では、高齢者自身が歩行補助具の使用についてどのような意思決定を行っているのかを調査した。高齢者がどのように、そしてなぜ歩行補助具を入手し使用するのかを理解することは、医療提供者が高齢の患者に対して補助技術や作業療法やその他のケアへの紹介について共通の意思決定を行う際に役立つであろう。高齢者の歩行補助具に対する考え方は、その使用率に影響すると思われ、高齢者が歩行補助具を使用する動機についてはほとんど分かっていない。英国の全国高齢者横断的人口調査から採用した24名の男女を対象に、詳細なインタビューからなる縦断的質的研究を実施した。参加者は、最初のインタビュー時に69-90歳で、15人が1年後にフォローアップされ、12人がその1年後に再びフォローアップされた。分析は定比較法を用いて行われた。	69-90歳 平均年齢80歳	ステッキやフレームなどの歩行補助具	Loungitudinal Design Gorouded theory , qualitative (underfined) in-depth innterviews	研究期間中、何人かの参加者は歩行補助具を使用したり、使用する補助具の種類を変えたりしました。時間が経つにつれて、参加者は補助具の使用に対する当初の不安を解消し、歩行補助具は自信を高め、活動や参加を容易にすると説明されました。歩行補助具を使い始めるかどうかの判断は、能力の緩やかな変化と急激な変化の両方、そして文化的な情報に基づく加齢に対する考え方に影響されていた。加齢に対する考え方は、当初は補助具の使用に対する障壁となったが、その後、使用の促進要因として作用した。	A,B,D,E	B-C
7	"Do I need it? Do I really need it?" Elderly peoples experiences of unmet assistive technology device needs	Astrid Gramstad 1, Sissel Lisa Storli, Torunn Hamran 2013 Norway	支援技術装置（ATD）に対する満たされていないニーズは、医療専門家または本人が評価したように、ATDがあれば恩恵を受けられる場合に発生する。高齢者の満たされないATDニーズは記録されているが、そのような満たされないニーズを抱えながら生活する経験については、ほとんど知られていない。 目的： ATD を申請したノルウェーの在宅高齢者の満たされていないニーズ体験を調査する。	69-90 歳	補助歩行器 シャワー補助椅子 電動車椅子 ビデ リフトチェア pillow to get out chairs（立ち上がり補助具）	phenomenological approach現象論的方法 in-depth innterviews	ATDのニーズが満たされていないという評価は、高齢者自体はなかなか実感としてわかっていない。彼らの期待や実際の動作を調整しながら活動を維持することで、高齢者が自分の不便さを自覚して適切なATDを利用することができる。高齢者と接するとき、医療従事者は高齢者の言葉にならないニーズや日常生活における潜在的な困難さに敏感である必要がある。	A,B	B-C
8	Older individuals' experiences during the assistive technology device service delivery process	Astrid Gramstad 1, Sissel Lisa Storli, Torunn Hamran 2041Norway	一般家庭で生活する高齢者に支援技術機器を提供することは、自立性を高め維持し、在宅での加齢を可能にするための重要な介入である。しかし、支援技術機器（ATD）サービス提供過程における高齢者の経験およびニーズについてはほとんど知られていない。本研究の目的は、ATDのサービス提供過程における高齢者の経験を調査することであった。	69-90 歳	補助歩行器 シャワー補助椅子 電動車椅子 ビデ リフトチェア pillow to get out chairs（立ち上がり補助具）	Loungitudinal Design hermeneutical phenomenological approach現象論的方法 in-depth innterviews	サービス提供のプロセスは一筋縄ではいかない4つのテーマで表現されるこ。「希望と楽観的な期待」、「サービス提供後の管理または追加的な支援の必要性」、「利用可能な支援の有無と支援をやめてしまうこと」、「責任をもってやることまたは後回しにすること」高齢者の経験は多様であり、必ずしも作業療法士に明示されない期待に関連していた。ATDがクライエントに届けられる状況は、サービス提供プロセスを成功に導く可能性を持つ重要な出来事として、クライエントによって強調された。	C,D	B-C

【別添】表10：Older adults' perspectives on the process of becoming users of assistive technology: qualitative systematic review and meta-synthesis から抽出された質的研究の一覧（全17件）

	title	Citation and country		Participants	Attype	Design methodology ,method	Themes	PHASES	Transitions
9	Exploring the meaning of a new assistive technology device for older individuals	Astrid Gramstad 1, Sissel Lisa Storli, Torunn Hamran 2041Norway	まだ自宅環境で生活している高齢者にとってのATDの意味を調査することを目的とした。方法ATDの体験談を提供するため、移動の困難さを補うため、セルフケアの補助のため、またはその両方のために新しいATDを受け取った高齢者を研究対象として募集した。参加者は、新しいATDの使用経験について、数ヶ月の間隔をあけて2回インタビューを受けた。インタビュー記録は、解釈学的-現象学的研究アプローチで分析された。結果分析の結果、ATDの体験談に関連する3つのテーマが繰り返された。	69-90 歳	補助歩行器 シャワー補助椅子　電動車椅子 ビデ　リフトチェア　pillow to get out chairs（立ち上がり補助具）	Loungitudinal Design hermeneutical phenomenological approach現象論的方法 in-depth innterviews	その結果、「パフォーマンスと選択肢を可能にする」、「支援を必要とする状態から他者を支援する状態への変化」、「将来への準備」という3つのテーマがATDの体験記述に関連して繰り返されることが明らかになった。結論ATDは、コンピテンス、マスター、コントロール、自己価値、希望、準備を高めるために利用されることが示された。ATDのサービス提供は、クライエント中心であるべきで、クライエントは変化を生み出す積極的な参加者として認識されるべきものである。	D,E	
10	Experiences among older persons using mobility devices	Elizabeth Hedberg-Kristensson 1, Synneve Dahlin Ivanoff, Susanne Iwarsson 2007 Sweeden	本研究の目的は、高齢者のモビリティデバイスの使用経験を調査することである。スウェーデン南部の2つの自治体に住む参加者を対象にフォーカス・グループ・インタビューを実施した。作業療法士と理学療法士が、関心のある65歳以上の参加者を特定した。計7回のフォーカス・グループ・インタビューに、22名が1回参加した。	65 歳以上	移動ディバイス 歩行器など	Retrospecctive Design/ qullitative approuch (undefiend)focus group interveiw	参加者の体験の5つの主要なカテゴリーが浮かび上がった。自治体による機器の供給と非供給」、「モビリティ機器の受容と非受容」、「モビリティ機器の使い分けが日常・社会活動を支える」、「日常・社会活動を制約するさまざまな障害」、「モビリティ機器を使用するための適応策」移動装置使用に関する非受容や障害を経験しており、地域リハビリテーションにおけるより効率的なデータ収集に関する品質開発の必要性が浮き彫りになりました。	C,D	
11	Elderly women's way of relating to assistive devices	Häggblom Kronlöf, Greta; * | Sonn, Ulla 1999 Sweeden	高齢の福祉用具使用者が、職業上のパフォーマンスにおいて福祉用具をどのように認識し、どのように関わっているかを記述することである。	72-95歳 女性	補助具 スティック 歩行具	Retrospecctive Design phenomenographic interveiw	ユーザーの態度は、次のようにいくつかの態度に分析されます。「支援機器が生活にうまく組み込まれている」、「高齢者は受け入れざるを得ない」、「機器を使用する必要性は自分の不完全さを感じる」と説明された。日常生活における支援機器の使用に対する適応は、「調整」と「あきらめ」と表現されます。支援機器のサポートは、外的な安全、内的な安全、尊重の3つの異なる方法で認識されています。 結論:高齢女性が人工機器に頼ることがどのようなことであるかを経験することは、支援を計画する際に重要である。現れる主な特徴は、自分の職業的パフォーマンスをコントロールしようとする努力、あるいはコントロールできているという感覚である。	C	B-C,C-D
12	Significant junctures on the way towards becoming a user of assistive technology in Alzheimer's disease	Eva Lindqvist 1, Louise Nygård, Lena Borell 2013 Sweeden	本研究の目的は、アルツハイマー病（AD）の初期段階にある人がどのように支援技術（AT）の利用者になったのか、また、これらの利用者や、関連する場合にはその重要な他者にとってATの利用は何を意味するようになったのかについて述べることである。	Participants(with Alzheimer'S disease) 54-79歳 平均年齢66.6歳	認知機能障害のある人をサポートするためのプロダクト既製品	Loungitudinal Design Gorouded theory , semi structured interviews	参加者はユーザーとして、時間と労力の節約、心配事やストレスの減少、安全感の増加を認識し、健康増進や社会活動などの価値ある活動を以前より多く、リラックスして行うことができるようになった。 結論本研究結果は、適切な人的サポートが利用可能であり、潜在的な利用者が困難やニーズを認識でき、それらを克服するための変化を起こす意欲と能力がある場合、ATはAD患者の活動パフォーマンスにプラスの影響を与えることができるという見解を支持するものである。	B,C,D	A-B,B-C,C-D

【別添】表10：Older adults' perspectives on the process of becoming users of assistive technology: qualitative systematic review and meta-synthesis から抽出された質的研究の一覧（全17件）

	title	Citation and country		Participants	Attype	Design methodology ,method	Themes	PHASES	Transitions
13	Being mobile: electric mobility-scooters and their use by older people	ESTHER MAY ,ROBYNE GARRETT and ALISON BALLANTYNE 2010 Australia	4 番目に大きい州である南オーストラリア州では、高齢者による電動モビリティースクーターの利用が増加し ている。その利用については、利用者、介護者、都市計画者、立法者などから様々な問題が提起されているが、これまで研究上の関心はほとんどなかった。本論文で報告する研究の目的は、モビリティスクーターを使用する高齢者に影響を与える要因、特に高齢者自身の視点から影響を与える要因を探ることであった。	電動モビリティースクーターを使用する高齢者67人へのアンケート調査南オーストラリア州の他の高齢者ユーザーの2つのフォーカスグループ	モバイルスクーター	Retrospecctive Design qualitative(undefined)open ended quwstionaire and focus group interveiw	参加者の71%以上がスクーターを2年以上所有しており、ほとんどがスクーターを新品で購入し、80%が4輪スクーターを所有していた。スクーターは主に、買い物や友人・家族の家に行くとき、そしてドライブに行くときに使用されていました。ほとんどの回答者は、毎週3～5回スクーターを使用し、自宅から2～5キロメートルの距離を移動していました。フォーカスグループから得られた主な知見は、「スクーターの入手」、「移動の意味」、「空間の共有をめぐる問題」の3つの主要テーマに分類された。それぞれを例証する。また、環境と建物のデザイン、利用者のより良いトレーニング、そして一般市民への教育への影響も議論されている。	B,C,D	B-C
14	Lifeworld perspectives utilizing assistive devices: individuals, lived experience following a stroke	Ingvor Pettersson 1, Peter Appelros, Gerd Ahlström 2007 Sweden	脳卒中後の障害を持つ個人が、支援機器の使用に関連する個人的な意味と生活体験をどのように記述したかを調査する。	脳卒中後の平均年齢75歳	補助具 個別ケア 移動機器 家事サポート機器 身の回りのサポート機器	Retrospecctive hermeneutic-phenomenological , coversatioonal interviews	しばしば複雑で矛盾した二重の経験があることがわかった。補助器具は、幸福と自立のための必須条件とみなされたが、同時に、器具の使用が意味する制約のために否定的な感情を生んでいた。これらの二重の体験は、生きている身体、空間、他者との関係、時間との関連で探求された。 作業療法士が個人の支援機器利用経験とその過程における支援の必要性を理解することを促進する。	C,D,E	
15	Older Homebound Women: Negotiating Reliance on a Cane or Walker	Eileen J. Porter,1 Jacquelyn J. Benson,2 and Sandy Matsuda3 2011 USA	生活の質を高め、身体の衰えを改善するためのテクノロジーに対する需要が高まっている（Charness, 2005; Czaja, 2006）。しかし、杖や歩行器などの伝統的な技術も含め、高齢者に技術的装置に対する意見を聞いたことのある実務家や研究者はほとんどいない（Zimmer & Chappell, 1999）。したがって、この論文で取り上げた問題は、重要かつタイムリーなものである。私たちの目的は、アメリカ中西部の州に住む40人の在宅高齢女性にとって、歩行器として杖や歩行器に頼ることがどのようなものであるかを詳しく説明し、それらの説明を個人的・社会的文脈に設定することである。	40人 85～98歳 女性 うち38人（95%）は筋骨格系の問題（関節炎、股関節の骨折、またはその両方）、37人（93%）は心血管系の問題（高血圧、冠動脈疾患、またはその両方）、17人（43%）は神経系の問題（脳卒中）を有していた	杖と歩行器具	Longitudinal design,phenomenological, semi-structured interviwes	杖や歩行器に頼ろうとする基本的な意図と、杖や歩行器が果たす関連した目的には、共通点と相違点があることが、データから明らかになった。参加者は、どちらの機器も一貫して補助的なものだとは考えていない。この結果は、高齢者、研究者、実践者、そしてこれらの機器の設計者が、これらの機器と折り合いをつけ、それらを利用することについて対話する機会を喚起するものである。	A,C,	B-C,C-D
16	Getting used to assistive devices: ambivalent experiences by frail elderly persons	Carina Skymne 1, Synneve Dahlin-Ivanoff, Lisbeth Claesson, Kajsa Eklund 2012 Sweden	虚弱高齢者がどのように支援機器ユーザーになったかを経験し、支援機器が日常生活における自立にどのような影響を与えるかを知ることであった。	複数の健康問題を抱える80歳以上の人々を対象としたフォーカス・グループ法 18人（女性14人、男性4人）	補助ディバイス	Retrospecctive design, qualitative(undefined) forcus group discussions　5回のグループディスカッションを実施した。各グループは1回、90-120分行われ、すべてのディスカッションはオーディオテープに録音された	知識と経験に対する自信」と「日常生活における支援機器の活用」です。知識と経験に対する自信は、「専門家を信頼し、自分を信頼する」、「支援機器に関する正しい情報を持っていることに自信を持つ」という、処方手続きにおける2つの経験カテゴリーによって形成されたものである。日常生活で支援機器に慣れること」は、日常生活で支援機器を使用する際の両義的な経験として、次の5つのカテゴリーによって形成されました。「機会が生まれるが制限がある」「安心できるが不安がある」「必要性が一過性とみなされるか永続性とみなされるか」「社会環境が後押しするが制限がある」「物理環境が促進するが複雑化する、その中間の経験はあまり極端でない」。本研究は、虚弱高齢者が支援機器の使用者になる過程では、特別に開発された支援が必要であることを示しています。	C,D,E	B-C

【別添】表10：Older adults' perspectives on the process of becoming users of assistive technology: qualitative systematic review and meta-synthesis から抽出された質的研究の一覧（全17件）

	title	Citation and country		Participants	Attype	Design methodology ,method	Themes	PHASES	Transitions
17	Factors that influence the use of assistance technologies by older adults who have a hearing loss	Kenneth Southall 1, Jean-Pierre Gagné, Tony Leroux 2006 CANADA	難聴の高齢者による支援技術の使用に影響を与える要因を説明し、より良く理解することであった。我々は、これらの技術の使用に関連する個人の経験についての詳細な説明を提供する方法論的アプローチを採用することに関心があった。そのため、質的な研究デザインを選択した。	聴覚補助技術をうまく活用する10人平均年齢73-92歳音声録音によるインタビュー記録から意味を抽出するために、主題分析を用いた	補聴アシスタントテクノロジー	Retrospecctive design, qualitative(undefined)interviwes	これらの支援技術をうまく利用するためには、聴覚障害の認識、技術的解決策の存在に対する認識、機器の相談と入手、機器の使用と修正された行動への適応が必要であることが示唆された。これらの4つのランドマークは、人々が支援技術の利用を成功に導くか、あるいは支援技術の利用を思いとどまるかの重要な段階であると思われる。これらの結果に基づき、アシスタンス技術の認知、獲得、利用に関する代表的なモデルを提案する。	B,C	A-B,B-C